

# 文章の型の提供と相互レビューツールによる作文指導の授業実践

高橋慈子<sup>†1</sup> 大場みち子<sup>†2</sup> 山口琢<sup>†3</sup>

**概要:** 論理的でわかりやすい文章作成の指導を行うために、文章の型をワークシートで使って提供するクラウドツールを使って作文指導の授業を実践した。相互レビューについても同ツールを使うことで、より具体的な相互フィードバックが得られる。さらに読み手意識を高めるために、ワークシートに読み手とペルソナを書き込んでから作文することをを行った。わかりやすい文章を書くための意識の変化と効果について作文指導の授業実践から考察する。

**キーワード:** 作文指導, 文章構成, 相互レビュー, ピアレビュー, アクティブラーニング

## Course practice of composition of sentences and guidance of composition by mutual review tools

SHIGEKO TAKAHASHI<sup>†1</sup> MICHIKO OBA<sup>†2</sup> TAKU YAMAGUCHI<sup>†3</sup>  
RYO FUJIWARA<sup>†3</sup> TATSUO KOBAYASHI<sup>†3</sup>

**Abstract:** In order to teach the creation of a logical and easy-to-understand sentence, we practiced composition instruction class using a cloud tool that provides sentence types using worksheets. More specific mutual feedback can be obtained by using the same tool for mutual review. Furthermore, in order to raise reader consciousness, I wrote a composition after writing a reader and a persona on a worksheet. Discuss the changes and effects of consciousness to write easy - to - understand sentences from the teaching practice of composition guidance.

**Keywords:** Writing tools , peer review , Mutual review, Logical Thinking

### 1. はじめに

デジタル変革や働き方改革といったビジネス環境の変化により、業務においてスピーディーかつ効果的にコミュニケーションスキルの重要性が高まっている。学生においても、レポート、卒業論文における各種の書類作成において、論理的にわかりやすく文章を書くスキルの獲得は必須である。就職活動を通して、社会人になる前に身に付けておくべきスキルと言えるだろう。

一方で、大学進学までに論理的な文章を書くための作文教育は十分といえず、大学の初年度教育に文章の書き方を盛り込む大学が増加している。「レポート・論文の書き方の文章作法」については、初年度教育に取り組んでいる大学の89%が実施し、前年の86%から増加している（文部科学省 2017）。ただし、同調査で「論理的思考や問題発見・解決能力向上」の取り組みは、65%に留まっており、論理的に思考し、文章として組み立てるための教育を模索している。津田塾大学のキャリア教育推進タスクフォースの取り

組みとして、正課授業のレポート等の文章作法の個別指導により、学生の気づきを促す指導を行ったり、早稲田大学のeラーニング形式により全学規模で学術的文章作成指導を実施したりしている事例もある。[1] eラーニングと実際の授業を組み合わせたブレンド型教育の実践事例も研究報告されている。[2] つくば国際大学医療保険学部看護学科では、レポートを書く力が医療系大学において実習記録などで必須の能力であるとし、DVD教材やレポートの書き方の作法をまとめたテキストの使用による作文教育の実践と効果を考察している。[3]

社会に出てから役立つスキルの育成が大学教育にも求められている現在、学術的論文の書き方に限らず、他者とのコミュニケーションを効果的、効率的に行うためのライティングスキルの指導が重要になるだろう。

本稿では大学での作文指導の正課科目「テクニカルライティング」において、わかりやすく、読み手に伝わる文章を書くための作文指導を実践した事例を発表する。

### 2. 授業実践と課題

「テクニカルライティング」科目は、大妻女子大学文学部コミュニケーション文化学科の2~4年生を対象とした選択科目として設置されている。2018年度は46名が履修した。後期15回のカリキュラムは、表1のように進めた。コンピュータ教室を使い、毎回、課題を1から3点作成す

<sup>†1</sup> 株式会社ハーティネス  
Heartiness Co., Ltd.

<sup>†2</sup> 公立はこだて未来大学  
Future University Hakodate

<sup>†3</sup> フリーランス  
Freelance Researcher

る。多様な文書を作成することを通して、社会に出て通用する文章力を身に付けることを狙いとしている。

が「②全体の構成を組み立ててから書いている」となった。前年度の授業での自己評価では、「②全体の構成を組み立ててから書いている」が最も低い点数となっていた。全体の構成を組み立てる前に、文章を書き始めている学生が多

表 1 授業カリキュラム内容  
 Table 1 Course curriculum contents t

	テーマ	課題1	課題2	課題3	追加演習
第1回	テクニカルライティングとは	文章力自己評価	自己紹介文		
第2回	文書の基本要素と書き方	議事録			日報
第3回	簡潔にわかりやすく書く	説明文リライト	メール文リライト		報告書リライト
第4回	ロジカルシンキングの基本	新聞記事のロジック分析	説明文 作文		
第5回	ロジカルライティング実践	説明文相互レビュー	説明文リライト		説明文 作文
第6回	全体の構成を考えて書き、レビューする	作文ツールを使った説明 作文	作文ツールを使った相互レビュー	リライトと振り返り	
第7回	行動につながるメール文を書く	作文ツールを使ったメール 作文	作文ツールを使った相互レビュー		別のメール文
第8回	文のつながりを考える、要約文を書く	ツールを使った新聞記事リード文の並べ替え	ツールを使った用語説明の並べ替え		新聞記事タイトルとリード作文
第9回	手順のある説明文を書く	作文ツールを使った課題提出手順 作文			作文ツールを使った説明と手順の作文
第10回	ビジュアル表現を活用する	絵や写真を入れた説明と手順 作文			画面ショットを入れた手順の作文
第11回	取扱説明書を作る①	企画設計シート記入			
第12回	取扱説明書を作る①	取扱説明書ライティング			
第13回	取扱説明書を作る①	取扱説明書の編集と製本			
第14回	取扱説明書の相互レビューと振り返り	制作シート記入	相互レビューと評点記入	振り返りシート記入	市販製品の取扱説明書評価
第15回	わかりやすく情報を伝えるために、振り返り	作文ツールを使った説明 作文	作文ツールを使った相互レビュー	受講レポート作成	

文章の作成は、短時間で取り組む学生もいれば、時間がかかる学生もいる。自分なりのペースで、課題に取り組めるように、内容に合わせた追加演習も提示した。提出期限は翌週とし、時間がかかる学生は、復習をしながら追加演習に取り組めるようにした。

第1回目の授業では、授業のオリエンテーションの後、自分のライティングスキルの課題を洗い出すために、「文章力自己評価シート」の記入と提出を指示した。評価項目は、以下の9項目を設定している。

●文章力自己評価シート 評価項目

- ① 読み手と目的を意識して書いている
- ② 全体の構成を組み立てから書いている
- ③ 重要な内容を先に書くようにしている
- ④ 文と文のつながりを考えて書いている
- ⑤ 具体的な情報を盛り込んで書いている
- ⑥ 不要なことを書かないようにしている
- ⑦ 「てにをは」や「の」など助詞の使い方に気をつけている
- ⑧ 接続詞の使い方を理解して使っている
- ⑨ 句読点を打つ場所に気をつけて書いている

項目の①～③が論理的な構成の組み立て、④～⑤がトピックの情報整理、⑥～⑦が文章表現力を評価するものとして想定している。評点については、次の4段階で記入させた。

4：良く出来ている 3：出来ている 2：あまり出来ていない 1：ほとんど出来ていない

評価点を分析した結果、図1のように最も評価が低いのは「⑥不要なことを書かないようにしている」2.45で、次

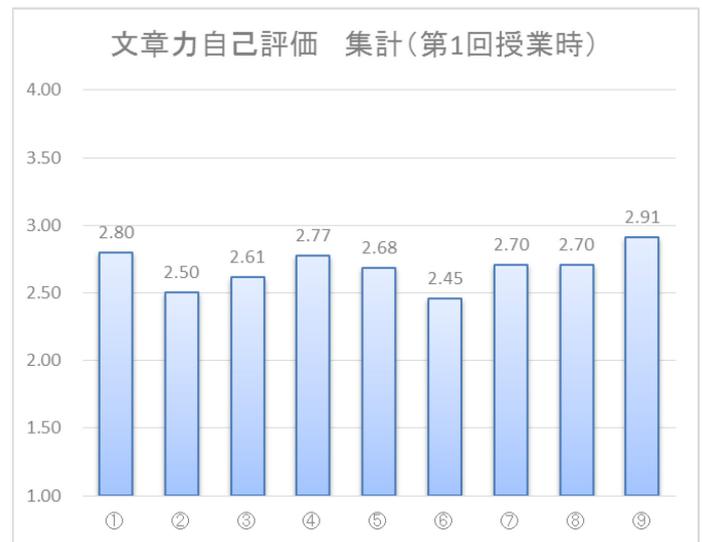


図 2 文章力自己評価シート 平均分析  
 Fig. 2 Writing ability self-evaluation sheet

い。文章力評価シートの記入に合わせて、文章作成に対する自分の課題を記入させたところ、以下のような課題が提出された。

- 一文が長くなり、簡潔に書けない
- 明確でわかりやすい文章構成を身に付けたい
- 段落を意識して書けるようになりたい
- 正しい日本語の使い方を学びたい
- 敬語の使い方、ビジネスメールの作法を学びたい
- 書き始めに悩む
- 語彙が少ない
- 文と文のつながりを作って書くことが難しい
- 制限された分量の中で内容を充実させること
- 話し言葉が多くなる

● 時間がかかる

「明快でわかりやすい文章構成を身に付けたい」との回答は、文章力自己評価の、「②全体の構成を組み立ててから書いている」ものの、明快な構成に悩んでいることがうかがわれる。また、「書き始めに悩む」との課題も、構成がまとまっていないための悩みではないかと推測される。

「文章のわかりやすい構成の組み立て方が難しい」との課題に対して、文書の種類に合わせた型を提示し、内容を書いていくことで、文章力が高められると仮説を立てた。型を提示し、構成を意識して書くためのツールを作文指導に使うことで、構成が「見える化」され、組み立てやすくなると想定する。また、型にあわせて書くことに加えて、他者からのレビューを相互に行うことで、読み手にとってのわかりやすさを向上させられると仮説を立て、相互レビューについても、ツールを活用して授業を実施した。

### 3. 先行研究と使用ツール

筆者らは、公立はこだて未来大学、大妻女子大学文学部コミュニケーション文化学科の学生を対象にしたライティング指導で、2015年より次の複数のwebアプリを開発、使用し、作文のふるまいの傾向を分析してきた。

- ・ Topic Writer (トピック・ライター)
- ・ Writing Analytics (ライティング・アナリティクス)

これらのwebアプリは、発表者3の山口琢が開発、公開している、ブラウザを利用して作文ができるクラウド型の作文ツールである[6]。文章の種類によって、必要と思われるトピックの枠組みをワークシートとして用意している。ワークシートを使って作成した文章は、利用者のDropboxフォルダーに保存される。

このTopic Writerでの文章作成履歴は、どの枠をどのような順番で書いたが記録される。教員は分析ツールを使って、作文行為のプロセスを分析することができる。提出された課題を評価するだけでなく、プロセスの違いが及ぼす、作文のわかりやすさの差を分析し、指導に反映することを目指して実践してきた。

また、2018年度はトピックを構成する要素である「文」のつながりを試行錯誤できる以下のツールも活用した。

ジグソーテキスト



図 3 作文ツール Topic Writer 画面

Fig.3 Writing tool 'Topic Writer' screen

ライティングツールを使って、文章を書く時の順番や編集のふるまいに傾向があるかどうかを分析し、2014年度から公立はこだて未来大学、大妻女子大学での作文指導に活利用し、より良い活用方法を検討してきた[7][8]。

## 4. 文書の種類に合わせた「型」を提供するワークシートを使用した作文指導の改善

### 4.1 「説明文」のワークシートを使った作文指導

表1のように、「テクニカルライティング」科目では、課題として、以下のような文章作成を課題としている。それぞれ目的と読み手が異なり、構成の組み立て方が異なる。文書に盛り込まれる情報要素と、構成の型の違いを理解して作文することで、わかりやすい文章の書き方を身に付けることを狙いとしている。

- ・ ビジネス文書 (社内・社外の連絡文書)
- ・ 用語説明文
- ・ メール文
- ・ 手順文 (課題提出の手順)
- ・ 手順文 (おにぎりの作り方の手順)
- ・ 注意を促す連絡文書
- ・ 総合演習 (概要, 手順文, 補足, 注意文を含む 4~8 ページの取扱説明書作成)
- ・ 用語説明文 (振り返り)

中でも、用語説明文については、読み手の想定、構成の仕方と文と文のつながりの違いによって、わかりやすさが異なる。文章力の差が現れやすい。読み手意識、構成、文のつながりといった複数の内容を意識しながら書くのは、作文に慣れてなく、苦手意識をもっている学生には難しい。そこで作文ツールを使って型を提示することで、作文の支援を行ってきた。先行研究では、Topic Writerを使うことで、文章の構成力を高める効果があることがわかった。[3]

教員による文章のわかりやすさの評価結果からは、作文ツールを使っても文章のわかりやすさについては、バラつきがあることがわかった。評価が低い文章は、構成はツールの使用で整ったが、情報の取捨選択が出来ていない傾向が見られた。

そこで今年度は情報の取捨選択の基準となる、「読み手」のペルソナ分析をワークシートに加えることで、読み手意識を高めることができ、結果的に文章のわかりやすさが向上すると仮説を立て、ワークシートの改善を行った。

### 4.2 読み手の「ペルソナ分析」欄を加えたワークシートによる作文

改善したワークシートには、図2のように文書に持ち込むべき要素の前に「読み手」と「読み手の特徴(ペルソナ)」を書き出す欄を追加した。

内容を書き出す前に、「読み手はどのような属性を持った人か」、「どのような知識を持っているのか、何を知らないのか」を具体的に書き出すことによって、読み手意識を具体的なアウトプットに反映しやすくなる。



図 4 Topic Writer 用語説明作文ワークシート

Fig. 4 Topic Writer Term Explanation Composition Worksheet

読み手の特徴を書くことは、単に「シニア」や「文系学生」と想定するだけでなく、より具体的に知っていること、使っているもの、関心を洗い出すことができた。「文系の学生」を読み手として、「クラウドコンピューティングとは何か」を書く説明文の作文では、「日常的にインターネットを利用しているが、IT用語に関する知識はあまりない」、「ITには詳しくないが、パソコンやスマホの操作は人並みにできる」や「パソコンを使うのは、レポート課題や授業の発表準備が中心で、頻繁には使っていない」といったペルソナの特徴が書き込まれた。

### 4.3 相互レビューのワークシートにも読み手の記入欄を追加

Topic Writer では、相互レビューに使えるワークシートも用意し、2017年度の授業でも活用した。[4] 手書きでのレビューに比べて、3割ほどレビュー時のコメントが増え、レビューの観点を養い、文章のわかりやすさの観点を理解するのに役立っている。



図 5 Topic Writer 用語説明文 レビュー用ワークシート

Fig.5 Topic Writer Term explanation text for review worksheet

2018年度の授業では、図5のようにレビュー用のワークシートにも「読み手」欄を追加し、レビューアが読み手を最初に入力することで、読み手にあった構成、文章表現になっているかをレビューする助けになるかどうかを検証した。

レビューのコメントからは、「文中で使用している語句が適切で、文系大学生が読みやすいと感じた」、「大学生に合った使い方が明記されていれば、もっと良い」といった、良い点や改善点についての具体的な指摘が、多く見られた。

## 5. 相互レビュー後の相互評価と教員評価

### 5.1 ルーブリックによる学生の評価と教員の評価

今年度は学生がワークシートによる相互レビューを行った後、ルーブリックを使った評価も実施した。それぞれの項目について、適切な評価が行われているかどうかを検証し、文章のわかりやすさの観点が身に付けられるかどうかを検証することを狙いとした。

表3にルーブリックの項目を示す。構成、情報整理と文脈、文章表現を7項目に分け、1から4の評価基準を作成した。

評価にあたっては、ルーブリックを使って評価することを簡単に説明した。

表4では学生による相互評価の結果と、教員による評価を比較した。全体的に学生の評価点数は高く、「4」点が多い結果となった。

項目ごとの学生の評価点平均と教員の評価点平均を比較したのが、以下の表である。最も開きがあるのが、「④説明に必要な情報が盛り込まれ、不要な情報がない」となり、差が小さいのが「⑥「てにおをは」など助詞の使い方が適切に使われている」であった。文章表現に比べて、情報整理の評価が難しいことがわかった。

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
学生評価平均	3.76	3.90	3.90	3.90	3.17	3.93	3.93
教員評価平均	3.24	3.48	3.26	2.72	2.24	4.00	3.83



1 04b79e07-1a1b-11e9-90c6-ff5c71f10f9d							4 063cf04c-1a1c-11e9-9f4c-ff5c71f10f9d						
n \ n+1	cc_0_1	cc_1_1	cc_2_1	cc_3_1	cc_4_1	other	n \ n+1	cc_0_1	cc_1_1	cc_2_1	cc_3_1	cc_4_1	other
cc_0_1	1	1	0	0	0	0	cc_0_1	2	1	0	0	0	0
cc_1_1	0	2	1	1	0	0	cc_1_1	0	1	1	1	0	0
cc_2_1	0	1	1	0	0	0	cc_2_1	0	0	1	0	1	0
cc_3_1	0	0	0	2	2	0	cc_3_1	0	1	0	3	0	0
cc_4_1	0	0	0	1	3	0	cc_4_1	1	0	0	1	1	0
other	0	0	0	0	0	0	other	0	0	0	0	0	0
同: 9, 右: 4, 戻跳: 3, 計: 16, EOI: 11							同: 8, 右: 2, 戻跳: 5, 計: 15, EOI: 22						

2 adb60878-1a1b-11e9-b341-ff5c71f10f9d							5 fe382038-1a1b-11e9-9ee6-ff5c71f10f9d						
n \ n+1	cc_0_1	cc_1_1	cc_2_1	cc_3_1	cc_4_1	other	n \ n+1	cc_0_1	cc_1_1	cc_2_1	cc_3_1	cc_4_1	other
cc_0_1	1	1	0	0	0	0	cc_0_1	1	1	0	0	0	0
cc_1_1	0	1	1	0	0	0	cc_1_1	0	1	1	0	0	0
cc_2_1	0	0	9	3	0	3	cc_2_1	0	0	1	1	0	0
cc_3_1	0	0	3	2	0	0	cc_3_1	0	0	1	5	1	0
cc_4_1	0	0	0	0	2	0	cc_4_1	0	0	0	1	2	0
other	0	0	2	0	1	3	other	0	0	0	0	0	0
同: 15, 右: 5, 戻跳: 3, 計: 23, EOI: 11							同: 10, 右: 4, 戻跳: 2, 計: 16, EOI: 8						

3 3a679f90-1a1d-11e9-ae8e-6d5008593b55							6 56318db5-1a1b-11e9-a332-6d5008593b55						
n \ n+1	cc_0_1	cc_1_1	cc_2_1	cc_3_1	cc_4_1	other	n \ n+1	cc_0_1	cc_1_1	cc_2_1	cc_3_1	cc_4_1	other
cc_0_1	1	1	0	0	0	0	cc_0_1	1	1	0	0	0	0
cc_1_1	0	1	1	0	0	0	cc_1_1	0	1	1	0	0	0
cc_2_1	0	0	3	1	0	0	cc_2_1	0	0	1	1	0	0
cc_3_1	0	0	0	1	1	0	cc_3_1	0	0	0	2	1	0
cc_4_1	0	0	0	0	1	0	cc_4_1	0	0	0	0	3	0
other	0	0	0	0	0	0	other	0	0	0	0	0	0
同: 7, 右: 4, 戻跳: 0, 計: 11, EOI: 4							同: 8, 右: 4, 戻跳: 0, 計: 12, EOI: 4						

図 6 Topic Analytics による作文プロセスの共起行列  
 T Co-occurrence matrix of composition process by Topic  
 Analytics

## 7. 授業終了時の文章力自己評価結果と向上したスキルの意識

### 7.1 文章力自己評価シート記入による課題の振り返り (授業終了時)

授業終了時の第 15 回に「文章力評価シート」を用意し、受講者に記入を指示した (図 7)。

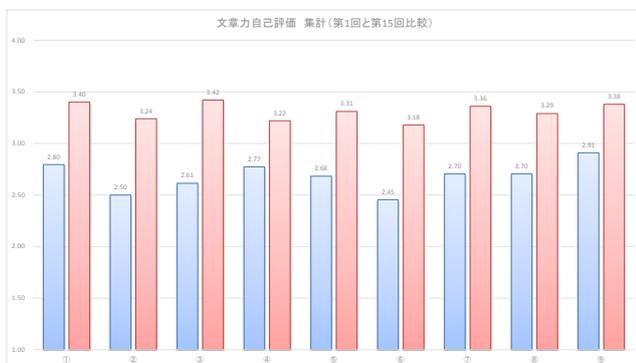


図 7 文章力自己評価シート (授業終了時) の集計  
 Figure 7 Aggregation of sentence ability self-assessment sheet  
 (at the end of lesson)

すべての項目で自己評価点が上昇した。「③重要な内容を先に書いている」が最も伸び、次が「②全体の構成を組み立てから書いている」となった。

### 7.2 履修報告による向上したスキルの内容

第 15 回の授業では、授業履修報告書として、文章力自己評価表の記入後、自由記述で「この授業を受講して身についたスキル、文章の改善点」や「今後の課題」を記入して

まとめ、提出することを課題とした。

「レビューを通し、他の人の文章を読むことで、どのようにすれば文章がわかりやすくなるのか、発見があった」や「読み手に合わせた文藻構成の仕方、読みやすく、理解しやすい文章の書き方、構成について学び、身に付けることができた」、「読み手と目的を意識して書くこと、全体の構成を組み立ててから書くことの重要性を学んだ」などの感想が見られた。

第 1 回目の課題に関する文章に比べ、ロジカルで具体的な文章でまとめられていた。

文書の種類に応じた型を使うことで構成をまとめながら書き、読み手のペルソナを記入することで、読み手意識を持って書くことの意識づけができ、作文にいかしている姿勢がうかがわれた。

作文プロセスの違いは、用語説明文ではトピックの枠が少なく、文脈に沿って書くことができるため、パラつきが少なかったのではないかと推測される。

書く順番がわかりやすく、型を使う効果が高い文書のワークシートを使って指導すると同時に、考え方によってプロセスのパターンが複数現れる文書の種類を検討し、分析し、作文指導にいかしていきたい。

## 8. おわりに

作文指導において、型をもった作文ツールを使って作文し、相互レビューを実施した。ワークシートには、読み手とペルソナを記載することで、読み手に合わせた構成、表現の意識が高まり、文章のわかりやすさが向上した。

読み手やペルソナは、文章そのものではなく、メタ情報といえる。今後は文章の質を高めるためのメタ情報を活用したワークシートの作成に取り組んでいきたい。

また、教員間でワークシートを共有することで、より効果的でアクティブな授業を実践できるだろう。現在、ロジカルシンキングの授業やプログラミング教育への実践や研究が進められている。ロジカルで、わかりやすいアウトプットをするためのツールとして、活用方法と評価を積み重ねていきたい。

## 謝辞

本研究は JSPS 科研費 17K01085 の助成を受けたものです。

## 参考文献

- [1] 黒河内利臣, 大学教育における文章作成指導の問題点, The Basis: 武蔵野大学教養教育リサーチセンター紀要, 4号 87-98, 2014
- [2] 富永敦子, 向後千春, 岡田安人, eラーニング・対面講義・グループワークに対する学習者の認知と成績との関連性. 教

- 育システム情報学会誌, 28 (3), 247-252, 2011
- [3] 初年次教育における効果的な教授方法について— 医療保健学セミナーにおけるレポートの書き方に関する一考察—, 山崎智代, 山崎紀久子, 日向野香織, 医療保健学研究, 7号, 31-43, 2016
  - [4] 深谷優子, 読解および作文スキルを向上させるピアレビューを用いた共同推敲, 東北大学大学院教育研究科研究年報 第57集・第2号, 2009
  - [5] 高橋慈子, 山口琢, 大場みち子, 小林龍生, 文章力向上教育におけるトピックライティングツールの活用, 情報処理学会研究報告ドキュメントコミュニケーション研究会, DC-098-14, 2015
  - [6] 高橋慈子, 山口琢, 大場みち子, 小林龍生, 文章作成教育におけるトピックライティングツール活用と効果, 情報処理学会研究報告ドキュメントコミュニケーション (DC), DD-101-09, 2016.
  - [7] 高橋慈子, 山口琢, 大場みち子, 小林龍生, 文章作成教育におけるトピックライティングツール活用と効果, 情報処理学会研究報告ドキュメントコミュニケーション (DC), DC-104-03, 2017.
  - [8] 大場みち子, 山口琢, 高橋慈子, 小林龍生, 論理的文章作成における文章評価と編集操作との関係分析, 情報処理学会情報シンポジウム(SSS2016), 3-3, 2016.